

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001336		
法人名	医療法人純正会		
事業所名	グループホーム サンハウス荒子		
所在地	愛知県名古屋市中川区高畑二丁目274番地		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2371001336-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1の902		
訪問調査日	令和2年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は常勤が多く、なじみやすい関係を作りやすい。
近隣の公園の環境に恵まれており、同行散策が楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年に開業した施設で、長い経験に裏打ちされた運営と認知症介護に習熟した職員のなかで、調理の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け、おやつ作り等、利用者が自分のできる役割を進んで果たしつつ穏やかに暮らすことができている。近くに荒子川公園があり、コロナ禍においても散歩を楽しむことができる良い自然環境がある。法人本部が毎年職員にアンケートを実施し、職場環境やメンタルヘルスの向上に取り組み、職員の間関係も話しやすく良好な状態である。集合写真を掲示する際に家族の承諾を得る等、プライバシーに配慮した取り組みがなされているとともに、利用者の希望を出来るだけ叶えたいという思いが伝わってくるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し実践につなげられるよう話し合い共有している。(8/8)	事業所独自の理念を作成し、出入りに掲示している。理念確認のための会議等は行っていないが、職員は記憶し暗唱できる程度に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や餅つき会を通じて交流できている。(5/8) コロナ流行の影響があり、以前のようにはできていない。(3/8)	町内会の、回覧板を回す際に話したり、鴉が散らかしたゴミを片付けたりしている。従来は祭り、盆踊り、もちつきなどを通じて地域との交流があったが、今年度はコロナのため行われていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行の影響で運営推進会議の開催招集ができず実践できていない。(8/8)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が主体となり、文書通信による報告ができています。(2/8) コロナ流行の影響で運営推進会議の開催招集ができず十分ではない。(6/8)	令和2年3月に会議を開催した後は書面での開催となっている。開催後は、毎回返信用封筒を同封して報告内容への意見などを求めているが、内容が記入されて戻るのはあまり多くない。	書面開催の場合は特に、参加者から意見・提案が出やすい工夫をした議題の選定や運営状況の説明資料作成が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が主体となり、事故報告等に必要な連絡がされている。(2/8) コロナ流行の影響で面談を控えており十分ではないと思う。(6/8)	市の担当者と話をするのは、ケアマネを更新する時、外部評価結果を持参する時くらいである。それ以外には、事故の報告、運営推進会議の報告を送る程度で、今年度は特に密な連携をする機会があったとは言えない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、委員会を実施しており、職員が取り組んでいる。(8/8)	2か月ごとに身体拘束に関する委員会を開催し、その後研修会を実施している。また、委員会の中で、利用者一人ひとりについて、実際に身体拘束状態にあるかを確認しチェック表を残す等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	出入り口の施錠、スピーチロックに関して、職員間で同じ意識を持つための取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束にも関連し、言葉使いなどを職員間で話し合い、意識して努めている。(8/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が情報収集をし、機会をみて権利擁護関係の話し合いができています。(2/8) コロナ流行の関係で、関係講習に参加する機会がない。(6/8)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、入居前見学や面談時に十分な説明をし理解されている。(7/8) 無回答(1/8)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ流行の影響で、面会頻度や運営推進会議参加が減り、以前のようにできていない。(5/8) 家族面会の際に意見を伺い、スタッフ間の話し合い時に報告・検討をしている。(2/8) 無回答(1/8)	年1回家族にアンケートを依頼している。結果は、今年度は書面開催であったが、運営推進会議で報告し意見を求めて運営に反映している。家族が訪れた時、意見・意向を聞き、ノートで共有すると共に会議で対応を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を中心とし、実現できるようスタッフ間で考えている。(5/8) 機会がないと思う。(2/8) 無回答(1/8)	管理者が直接意見を聞く、毎日の申し送りの際に意見を出してもらう等の方法で意見を反映している。3Fは計画作成の会議で意見が出て、リーダーを中心に検討するのが慣例となっている。年1回は本部からのアンケートも実施されている。	本部のアンケート調査結果も運営に反映させる取り組みを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心とし、出来ることは行っていると思う。(5/8) あまり感じられない。(2/8) 無回答(1/8)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修のほか、外部研修参加や資格取得の支援があり、取り組まれていると思うが、コロナ流行の影響で機会が少ない。(7/8) 無回答(1/8)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の事業所でのボランティアショーに入居者と共に見学参加をし、スタッフ間の交流はあるが、コロナ流行のため機会はなくなっている。(8/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談に、管理者だけでなくスタッフも付き添い情報入手をしている。その際に面談した家族ともよい関係が築けている。(8/8)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や、入居初期の家族の不安が取り除けるよう、現場のスタッフがお話をする機会を持ち、関係作りに努めている。(8/8)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な福祉用具は管理者が、日用品はスタッフが家族と連絡をして対応している。訪問診療・訪問理美容・訪問歯科も家族の意向を大事にしている。(8/8)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームらしく、入居者のことを年上の家族のようにとらえ、一緒に生活していると感じられることを大切にしている。(8/8)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係作りができるよう努めている。(7/8) コロナ流行のため面会に制約があるが、スタッフから家族に電話をするなど信頼される関係作りをしている。(1/8)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行のためあまりできていない。(2/8) 制約がある事を理解していただいた上で、面会・外出に気持ちよく対応している。(6/8)	家族が受診に同行するとき、ついでに喫茶店、公園へ連れていったり、自宅で一泊したりしている。コロナのこともあり、各々の知人などへ事業所からは積極的に訪問や交流の呼びかけをしてはいない。	事業所が利用者の家族、知人などに働きかけ、できる範囲で関係継続を支援されることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考えた配席に努めている。(3/8) できるように努めている。(4/8) 他者との関わりを持ちたくなさそうな入居者に対し困難を感じている。(1/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのような機会がある時には努めている。(5/8) 管理者が行っており、自分はあまり関係しない。(1/8) わからない。あまり行えていない。(2/8)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認している。(7/8) 意向の把握に努めているが、入居者によっては困難な場合もある。(1/8)	衣類、食事に関することが多いが、生活の中で利用者と話し、意向・希望を聞きだすようにしている。自分から意向を話せない人に対しては、粘り強く話しかけ、反応で判断している。	自分で意向を示せない利用者への対応方法を検討し、職員間で共有されると良い。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報収集に努めている。(1/8) 入居後の会話の中からも生活上の意向の情報を得ている。(1/8) 把握に努めている。(6/8)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、排泄状況や、他スタッフの申し送り記録を確認し、心身の状態の把握に努めている。(8/8)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成は担当者が中心となっておこなっている。(4/8) 計画に役立つ家族意向の確認をしている。(1/8) モニタリングの場で話し合い、計画につなげている。(2/8) 自分はあまり関係しない。	家族へは毎月利用者の健康・生活状況を報告している。家族の意向もとりいれながら、6ヶ月ごとに関係者によるモニタリング会議を行い、結果を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践に活かしている。(6/8) 本人の言葉や思いをできるだけありのまま記録し、計画の見直しに役立てるようにしている。(1/8) スタッフ間でも意識が違い、共有できないことがある。(1/8)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組み・支援をしている。(6/8) ニーズに対し、スタッフ間で話し合いアイデアを出して取り組みが可能な場合もある。(1/8) 自分はあまり行えていない。(1/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しむことができるよう努め、支援している。(7/8) 自分はあまり行えていない。(1/8)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の際に相談をし、受診の指示があれば、家族又はスタッフ同行で病院受診を行っている。(7/8) 自分が対応する時には、うまく医療専従者との関係を作ることができない。(1/8)	利用者の1/3がかかりつけ医を利用している。病院受診時は家族が介助し、職員はその結果を聞き取り日常の介護に反映させているが、新しい薬を処方された時や家族の説明が良く分からない時は医師に電話して確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護の際に体調変化を伝え連携している。訪問診療医師への連絡や、夜間の電話相談にも対応されている。(8/8)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りに努めている。(7/8) 入院中の状況は主に管理者が確認し、スタッフに伝えられているが、自分が直接病院と情報交換をする事はない。(1/8)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の状態により、家族との相談の上で地域の医療・介護関係者をつなげる橋渡しをしている。看護師が配置されていないため、終末期の対応が難しいこともあるが、主治医・家族との話し合いを通じて対応している。(8/8)	契約書に「常時の医療処置」ができないことが明記しており、入所時に重度化・治療に関して意向調査を行っている。実際に重度化した時には医療機関、家族等の橋渡しをして、話し合いの結果で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修への参加を積極的に勧められており、全てのスタッフは実践力があり、その時に対応できるよう努めている。(7/8) 職場内で応急手当等の訓練は行われていないが、研修により理解できている。(1/8)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行われており、実践できる。(7/8) 施設内での訓練は行っているが、地域との協力体制はよく分からない。(1/8)	年2回の防災訓練を通じて、消防との連携を取っている。今年度は室内で各階の端に利用者を集める訓練を行った。また、断水に備えて受水槽から水をくみ出す器具を作り、動作を確認した。	夜間に非常階段の踊り場に避難することを考慮し、人感センサー付き照明器具の設置を検討されると良い。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに対応した配慮をしている。 (7/8) 配慮しているつもりだができていない時もある。(1/8)	介護においては利用者を尊重した対応をしている。また、無関係な人が載っていない写真を選んだり、外来者が見る場所に掲示する集合写真は家族の承諾を得たりする等、プライバシーに配慮した支援を行っている。	「ちゃん付け」等の呼び方は本人の希望で行っているとのことであるが、「ちゃん付け」で呼ぶことにより、話し方全体が必要以上にくださったものにならないよう留意されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望がかなえられるよう、できるだけ働きかけている。(8/8)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望に沿うよう努力している。 (5/8) 買い物や外食の機会に本人のペースを大事にしている。(1/8) 共同生活の中で可能な限り支援している。 (1/8) 時に職員都合になるときもある。 支援をしている。(5/8)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく身だしなみの支援をしている。 (1/8) 入浴時の着替えを一緒に選ぶ支援をしている。 (1/8) ひげそりやヘアブラシをご自分でできるよう支援をしている。(1/8)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	支援している。努めている。(6/8) 一緒に食事作りをし、より楽しめるよう働きかけている。(2/8) 職員は全て入居者と一緒に食事をし、楽しい雰囲気づくりに努めている。	食事の好みは職員が普段聞きとっており献立に反映させている。誕生日会では本人の好きなものを提供している。下ごしらえ、テーブル拭き、後片付けは利用者が役割を持って進んでやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。(6/8) 水分量の不足がないよう、ゼリー食など形状変更で対応した支援をしている。(2/8)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	努めている。(4/8) 口腔ケアや、必要な方には義歯洗浄などの介護をしている。(4/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援し行っている。(6/8) 尿便意の訴えがない方には定時に声かけ誘導をしている。(2/8) 人員の関係で、夜間オムツ交換の入居者は2名、日中は全員トイレでの排泄。	自分でトイレに行く利用者が多く、昼間にチェック表など活用して声掛け支援するのは各階2名程度である。利用者が部屋に戻るときは、念のため声掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、繊維質の食物、排泄チェック表の活用により個々に支援している。(4/8) 取り組んでいる。(4/8)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は本人のこだわりも尊重し、気持ちよく入浴できるよう支援している。(7/8) 個々の入浴日や時間帯は、職員都合になることもあるが、納得できるよう説明している。(1/8)	決められた入浴時間帯はあるが、失禁した時は午前に入浴する事もある。嫌がる利用者も脱衣所までは連れていき、習慣を継続するよう支援している。ゆず、菖蒲等を入れて、楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を大切に、夜間は安眠できるよう支援している。(8/8)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援し努めている。(6/8) 処方変更時には体調変化に気を付け、看護師に相談している。(1/8) 自己服用可能な方でも、のみ忘れがないよう注意している。(1/8)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調変化に配慮したうえで、気分転換ができるような支援をしている。(1/8) 体操やレクリエーションを通じ支援をしている。(1/8) 支援し努めている。(6/8)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣公園の散歩を通じて支援している。(8/8) コロナ流行の影響で、人の多い場所への外出は控えている。	以前はドライブ、外食、他施設でのボランティアショーなどいろいろな外出の機会を作っていたが、今年度はコロナの関係で、公園への散歩に絞って外出支援をしている。	施設内で利用者が楽しんで身体を動かす機会をつくり、体力を維持できるような配慮を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば配慮し支援する。(8/8) 金銭の所持は家族の同意を得て、少額に限っている。夏祭りでお好きな物を買う機会があったが、今年には行なえていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には基本的に無条件でかなえている。(7/8) 届いた手紙は未開封でご本人に渡し、読んでもらっている。(1/8) 希望があれば郵送のお手伝いもする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾りは季節感を感じてもらえるものを入居者と一緒に作成するなどの工夫をしている。(8/8) グループホームとして設計された施設の為、共用空間の設備は配慮されている。	GHとして設計され、トイレ、照明、騒音などに配慮した共有空間となっている。利用者と職員が協力して季節の飾りを作り、室内に掲示し明るい雰囲気醸成している。机、椅子の配置は利用者の人間関係を配慮しており、テレビを見て穏やかに過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファで一緒に楽しめるようレイアウト変更をしたり、近くの自席でも過ごせるよう、本人の好みを大事にしている。(8/8)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からなじみの物を持ってきてもらうなどの工夫をしている。(8/8) 居室内は、ベッド部以外は布団から家具まですべてご家族に入居時に搬入してもらい、なじみの物が多くなっている。	ベッド以外は利用者が馴染みの物を持ち込んでいる。必要なら施設が家族と相談し、購入することもある。家具は利用者の移動を妨げないように配置するが、特にテレビの周りは自宅と同じような配置とするよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が出来るような配慮をし、転倒リスクがたかくなならないような工夫、また衣類収納をご本人が分かりやすいよう一緒に行う、などの工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001336		
法人名	医療法人純正会		
事業所名	グループホーム サンハウス荒子		
所在地	愛知県名古屋市中川区高畑二丁目274番地		
自己評価作成日	令和2年11月26日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2371001336-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1の902		
訪問調査日	令和2年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は常勤が多く、なじみやすい関係を作りやすい。 近隣の公園の環境に恵まれており、同行散策が楽しめる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年に開業した施設で、長い経験に裏打ちされた運営と認知症介護に習熟した職員のなかで、調理の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け、おやつ作り等、利用者が自分のできる役割を進んで果たしつつ穏やかに暮らすことができている。近くに荒子川公園があり、コロナ禍においても散歩を楽しむことができる良い自然環境がある。法人本部が毎年職員にアンケートを実施し、職場環境やメンタルヘルスの向上に取り組み、職員の間関係も話しやすく良好な状態である。集合写真を掲示する際に家族の承諾を得る等、プライバシーに配慮した取り組みがなされているとともに、利用者の希望を出来るだけ叶えたいという思いが伝わってくるグループホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に入口に掲示しており、スタッフも理解し実践につなげている。(8/8)		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行のため地域の催しが中止され、参加できていない。(7/8) 近隣公園の散歩時に地域住民に挨拶をしている。(1/8) カラス被害で散らばった近隣のゴミをこまめに回収している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に近隣任氏の理解を得ている。(1/8) 運営推進会議の招集がコロナ流行のためできなくなっており、地域に向けての活動はできていない。(5/8) 管理者の業務(1/8) 自分には分からない。(1/8)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議主宰の管理者に取組状況を報告し、会議での意見をサービス向上に活かしている。(6/8) コロナ流行の影響で会議の開催がないため、郵送された質問票の情報を得ているが、回答は少ない(2/8)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となって取り組んでいる。(5/8) 協力関係が築かれるよう自分も取り組んでいる。(2/8) コロナ流行の為、機会が少ない。(1/8)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関施錠は安全の為であり拘束とは受け止めていない。(7/8) スピーチロックも拘束と受け止められるなら、境目がよく分からない。(1/8)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けており、注意し、虐待防止に努めている。(8/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援し行っている。(5/8) 管理者が中心となって行っている。(2/8) 権利擁護について学べていない。(1/8)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。(6/8) 家族からの質問の機会があれば説明している。(2/8)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見要望を聞き反映するよう努めている。(5/8) コロナ流行の影響で外部者に意見要望を表す機会がない。(1/8) 管理者またはケアマネジャーが行っている。(2/8)		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートなどを通じて出された意見が反映されていると思う。(6/8) 反映されているかはよくわからない。(2/8)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を叶え、身体疲労を考慮した勤務シフトが作成され、希望した資格取得の援助が受けられているため、勤務環境の整備に努められていると思う。(6/8) 自分はよくわからない。(2/8)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ流行により、以前のように外部研修に参加する機会は減ったが、随時所内研修があり、取り組みは進められている。(7/8) 自分はよくわからない。(1/8)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者から同業者の参加する外部研修への情報提供・支援がされている。(4/8) コロナ流行のため外部者との接触機会がほとんどない。(1/8) よくわからない。(3/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、言葉を記録し、要望について職員間で話し合っている。(8/8)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者だけでなく、面会時の家族の不安にも職員が答え、外来受診付き添いの要望にも応えている。(8/8)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・職員ともに対応に努めている。(8/8) 管理者は入居検討時に、他の施設・サービスの説明や見学を勧め、当施設が提供するサービスを家族・本人が選択できる支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロア内で長い時間を一緒に過ごすうえで、家族的に手伝うを頼むなどのかたちで、共同生活者の関係を築いている。(8/8)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の対応、毎月の近況報告、家族への電話説明は職員・管理者ともに行っており、良い関係が築けるよう努めている。(8/8)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行のため面会時の制約は多いが、家族・知人との面会・外出の機会を設け支援に努めている。(4/8) 家族・知人の面会自粛が顕著でこちらからも働きかけてはいない。(4/8)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関わりを持てるよう、毎日のミーティングの場で話し合い支援に努めている。(8/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自分ができることがあれば相談・支援に努めている。(7/8) 退去後も個人的に入院先のお見舞いを行ったことがある。(1/8) 施設住所地のまま入院退去の方に対し、行政からの郵送物を間違いなく転送し、時に説明もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のミーティングのほか、計画作成のカンファレンスの場で把握・検討をしている。(7/8) 無回答(1/8)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の管理者からの情報のほか、本人や家族の話の中から経過の把握に努めている。(7/8) 無回答(1/8)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の一日の過ごし方や、日々の健康状態、できる事できない事を各職員が把握している。(7/8) 無回答(1/8)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のコミュニケーションや、家族からの話・希望をもとに、計画作成時のモニタリングのためのカンファレンスではできるだけ多くの職員が参加し話し合い、計画作成担当者がまとめ、家族の同意を得ている。(7/8) 無回答(1/8)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の作成は日々の業務であり、内容をより簡潔・正確になるようリーダーが指導している。計画作成時の参考だけでなく、出勤時の職員が読み情報を共有できている。(7/8) 無回答(1/8)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者だけでなく職員がアイデアを出し取り組んでいる。(6/8) 自分は取り組めていない。(1/8) 無回答(1/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(近隣公園設備、訪問医療、訪問理美容を活用し)支援できている。(6/8) 地域資源がよく分からず支援できていない。(1/8) 無回答(1/8)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医との情報共有のほか、専門医受診のための家族対応や、スタッフによる受診同行を行い支援している。(7/8) 無回答(1/8)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際の相談を行い、訪問診療医との情報共有も確認している。(7/8) 無回答(1/8)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やユニットリーダーが中心となり、病院訪問や相談・支援を行い、同法人、他法人の差なく病院関係者との関係づくりができています。(7/8) 無回答(1/8)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者とユニットリーダーが窓口となり、家族・医師の意思確認の場を設けている。終末期に関しては過去1年の実例はない。(7/8) 無回答(1/8)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員個々は研修を経験し、職場の緊急マニュアルも整備されており、実践力を身につけている。過去1年では転倒・発熱事例の救急対応の経験がある。(7/8) 無回答(1/8)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、職員は身につけている。地域への災害時計画の提出を通じ、協力体制に組み入れられている。(7/8) 無回答(1/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、自尊心を意識し、職員間ではインシヤル呼びをするなどして対応をしている。(8/8)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような話かけをし、事例をミーティングの場で話し合い共有している。(8/8)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩時の拒否には柔軟に対応し、希望を大事にしているが、全体の流れは職員側の決め事や他入居者との兼ね合いから、本人の希望が全て叶えられるとは言えない。(8/8)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択をできるだけ本人にしてもらったり、理美容の予定は早めにお伝えし、おしゃれの気分を感じてもらえるように支援している。(8/8)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや片づけを利用者と職員が一緒にできるように配慮し、嫌いな食材は他の物に替えるなど個々に対応している。(8/8)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量や水分摂取量を確実に記録し、水分制限者への対応や、タンパク質不足を指摘された方への対応を行っている。(8/8) 月ごとの摂食量・身長・体重・BMI・体重減少の有無・アルブミン値を主治医に報告し共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後に口腔ケアの声かけをし、必要な方には介助を行っている。(8/8) 義歯の状態が悪い方には家族相談のうえ訪問歯科医につないでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名を除きトイレで排泄できており、尿便意の不明な方には定時の声かけをしている。個々の状態をみて失禁頻度により布パンツとりハビリパンツを使い分ける工夫をしている。(8/8)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけ、繊維質を考えた食材、ヨーグルト使用、毎日の体操等を個々に対応している。(8/8)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿うよう努めている。(6/8) 入浴の時間帯(13~14時台)と入浴日間隔は決めて行われており、個々の希望があっても叶えられていない。(2/8)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のうたた寝には休息の声かけをし、夜間は安眠できるよう支援している。(8/8)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の服薬確認のほか、薬ごとの副作用(熱発、下痢)に注意している。(8/8) 各入居者の処方薬は、職員が担当を決めて事前にセットを作り、飲み忘れや誤薬が起きないように注意している。薬情の管理も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団での体操や下肢運動のほか、個別の裁縫・塗り絵・工作などの手作業や、レクリエーションとして入居者に手作りおやつに参加してもらい、気分転換を図れるよう支援している。(8/8)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	部外者と密にならないように、近隣公園への散歩外出を行っている。家族との同行外出も事前の検温やチェックのうえで行われている。(2/8) コロナ流行の影響で、以前のような同法人施設でのボランティアショーや、外食ツアーは今年になって行えていない。(6/8)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のやり取りや紛失があるため、お金の所持はお断りしている。必要な物品は施設立替で購入したり、薬局支払いが高額な方はその分をご家族から預かり直接支払っている。(7/8) 無回答(1/8)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には施設電話を活用してもらっている。(5/8) 自分はしていない。無回答(3/8) 入居者あてと思われる郵便物は直接本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような手作り飾りやポスターをフロアの随所に掲示し、楽しめるよう工夫している。(8/8)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いにフロアのソファや椅子、あるいは食事時の自席で過ごされており、居心地が良いように見守りをしている。(8/8) 居室で過ごす事を望む方には柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物を持ち込むことをお勧めして、居室で居心地が良くなるよう支援している。(8/8) 入居前の居室にはベッド台のほかは備品がなく、布団を始めご自宅でご使用のものをお持ちになることをお勧めしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり設置や、トイレやご自分の居室を分かりやすく表示して工夫している。(8/8)		